

評価結果ダイジェスト

[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > 評価結果ダイジェスト

評価結果ダイジェスト

▼全体の評価講評 ▼サービス分析結果 ▼利用者調査結果 ▼事業者のコメント

平成19年度

知的障害者通所授産施設[経過措置]

事業所名称	世田谷区立砧工房
評価機関名称	株式会社 福祉ベンチャーパートナーズ
評価者	修了者No.H0202075 修了者No.H0501049 修了者No.H0602039
評価実施期間	2007年8月27日～2008年1月29日

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

[評点の見方](#)

全体の評価講評

▶ 詳細はこちらから

💡 特に良いと思う点

- 就労に重点を置いた支援サービス
- 授産作業の見直しによる工賃アップ、利用者と職員意識の向上
- 就労後のアフターフォローの充実

✓ さらなる改善が望まれる点

- ヒヤリハット、事故防止、再発のための取り組み
- 利用者の主体性や働く力を引き出すための手引き書の作成
- 施設からの働きかけによる利用者本人の意向の把握、集約

[このページの一番上へ](#)

サービス分析結果

▶ 詳細はこちらから

サービスの実施項目

サービスの実施	評点
1. 個別の支援計画に基づいて自立(自律)生活が営めるよう支援している	A
【講評】 詳細はこちら	
• すべての利用者の個別支援計画と支援の留意点を個別支援計画一覧にまとめ全職員に配布... • 自立生活についての支援は就労支援を中心に行っている。特に分場は就労を目的としてサ... • 対人関係についての相談は、必要に応じて個別に行っている。また、利用者本人会である...	
2. 個別の支援計画に基づいて就労・日中活動等に関するさまざまな支援を行っている	A
【講評】 詳細はこちら	
• 本園では、3つのグループに分かれてそれぞれの作業室で活動を行っており、片栗粉加工... • 外からの過度な刺激が苦手な利用者には、できるだけ集団から離れたところに座り、	

ヘッ...

- ・ 今年度から工賃の支給方法が変わり、本園、分場共通の仕組みとなり、利用者それぞれの...

3. 栄養のバランスを考慮したうえでおいしい食事を楽しく食べられるよう工夫している

A

【講評】 [詳細はこちら](#)

- ・ 年に2回の嗜好調査の結果や、栄養のバランスなどを考慮し、施設の栄養士と、委託先の...
- ・ 食事はご飯の量を調整したり、刻みや極刻みなどの食形態を提供できるようになっており...
- ・ 各テーブルに栄養士や、看護師も含めて職員が入り、一緒に食事をしている。作業中は作...

4. 身の回りの支援に関しては、利用者の立場を考えてサービスを行っている

A

【講評】 [詳細はこちら](#)

- ・ こだわりが強く、更衣等に時間がかかってしまう利用者に対しても、自分で身の回りのこ...
- ・ 当施設では、介助を必要とする利用者は少ないが、必要がある場合には同性介助を徹底し...

5. 利用者の健康を維持するための支援を行っている

A

【講評】 [詳細はこちら](#)

- ・ 利用者全員が年に1度の健康診断と歯科検診を受けるほか、月に2回内科検診を受けてい...
- ・ 服薬については事前に看護師が、家族から薬表を預かり服薬している薬を把握している。...
- ・ 利用者の体調変化時には、基本的には常勤の看護師が対応している。発作の可能性がある...

6. 利用者の自主性を尊重し、日常生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている

A

【講評】 [詳細はこちら](#)

- ・ 7つの年間行事のうち6つの行事については、利用者が実行委員会に参加し、職員と一緒に...
- ・ 毎日の清掃は作業終了時に利用者と職員が行っている。その他の時間でも汚れに気づいた...
- ・ 本園、分場合同で利用者の本人会である「きぬた会」を行っている。利用者同士で、作業...

7. 施設と家族等との交流・連携を図っている

A

【講評】 [詳細はこちら](#)

- ・ 家族への電話連絡や連絡帳記入の前には必ず本人の意思を確認するようにしている。トラ...
- ・ 本園では連絡帳を利用して、分場では作業日誌を利用して日々の活動の様子を伝えている...
- ・ 家族へ体験型グループホーム、緊急一時保護や、障害年金の制度の説明など、個別に必要な...

8. 地域との連携のもとに利用者の生活の幅を広げるための取り組みを行っている

A

【講評】 [詳細はこちら](#)

- ・ 地域のイベントなどの案内を施設内の掲示板や通信を使って紹介している。イベントに関...
- ・ 近隣の商店街や町会のお祭りに参加し、販売活動もしている。本園の近くには小学校があ...

評点の内容
▶ 詳細はこちらから

利用者調査結果

▶ 詳細はこちらから

※読み上げソフトをご利用のかたへ
パーセンテージの読みあげは「はい」「どちらともいえない」「いいえ」「無回答」の順番で読み上げられます。

有効回答者数/利用者総数
32/41

■ はい ■ どちらともいえない ■ いいえ ■ 無回答・非該当

1. 仕事など日常の活動はやりがいがあるか	96.0% どちらともいえない: 3.0% いいえ: 0.0% 無回答・非該当: 0.0%
2. 工賃・給料の支払いのしくみは、わかりやすく説明されているか	68.0% 12.0% 12.0% 6.0%
3. 必要なとき職員からの相談・支援は十分か	81.0% 6.0% 6.0% 6.0%
4. 施設の設備は安心して使えるか	75.0% 6.0% 15.0% いいえ: 3.0%
5. サービス提供にあたって、利用者のプライバシーは守られているか	43.0% 37.0% 9.0% 9.0%
6. 利用者の気持ちは尊重されているか	68.0% 18.0% 9.0% いいえ: 3.0%
7. 職員の対応は丁寧か	90.0% 6.0% いいえ: 0.0% 無回答・非該当: 3.0%
8. 個別の目標や計画を作成する際に、利用者の状況や要望をきかれているか	87.0% 9.0% どちらともいえない: 0.0% いいえ: 3.0%
9. 【個別の目標や計画について説明を受けた方に】 個別の目標や計画に関しての説明はわかりやすかったか	70.0% 18.0% 7.0% いいえ: 3.0%
10. 【過去1年以内に利用を開始し、利用前の説明を受けた方に】 サービス内容や利用方法の説明はわかりやすかったか	60.0% 20.0% 20.0% いいえ: 0.0%
11. 不満や要望を事業所や職員に言いやすいか	50.0% 34.0% 6.0% 9.0%
12. 利用者の不満や要望はきちんと対応されているか	56.0% 28.0% 12.0% いいえ: 3.0%
13. 第三者委員など外部の苦情窓口にも相談できることを知っているか	34.0% 6.0% 40.0% 18.0%

■ はい ■ どちらともいえない ■ いいえ ■ 無回答・非該当

事業者のコメント

* 以下の項目は事業者によって、自ら更新される情報です。

[このページの一番上へ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#) | [特集](#) | [アクセシビリティについて](#)

Copyright©2008 [\(財\)東京都高齢者研究・福祉振興財団](#)

【問合せ】メールアドレス: fukushiit@fukushizaidan.jp 電話: 03-5206-8733

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 全体の評価講評

全体の評価講評

▼全体の評価講評 ▼コメント

平成19年度

知的障害者通所授産施設[経過措置]

事業所名称	世田谷区立砧工房
評価機関名称	株式会社 福祉ベンチャーパートナーズ
評価者	修了者No.H0202075 修了者No.H0501049 修了者No.H0602039
評価実施期間	2007年8月27日～2008年1月29日

全体の評価講評

特に良いと思う点

● 就労に重点を置いた支援サービス

「主体的に働く力を伸ばす」を理念に掲げ、本園、分場、それぞれの機能と役割を明確化したサービスを提供している。本園は主に福祉的就労の場とし、片栗粉の仕分け加工、受注作業などを用意、利用者特性に合わせてグループ分けを行い、主体的に仕事に取り組めるよう、働く意欲を高めるよう支援している。就労支援にも積極的に取り組んでいる。分場は、企業就労を目指す方の訓練の場と位置づけ、水耕栽培、リサイクル、配達などの多様な作業メニューを経験できるようにし、さらには職場適応プログラムも計画的に実施している。

● 授産作業の見直しによる工賃アップ、利用者と職員意識の向上

主体的に働く力を伸ばすにはどのようにすべきかという議論を重ね、授産作業の抜本的見直しに取り組んできた。平成18年度末より、新たに片栗粉加工の作業を導入し、経営層、職員が一丸となって見事軌道に乗せることができた。これらの取り組みによって、本園利用者の工賃は大きく増加し、利用者の働く力、意欲の向上、情緒の安定や主体性の向上など様々な成果が生まれている。加えて、利用者の成長を契機として職員意識も向上し、さらなる改善に向けた取り組みの機運が生まれている。

● 就労後のアフターフォローの充実

就労後の利用者のOB,OG会「ディアーフренд」の運営をサポートしており、毎月2回本園での話し合いと、カラオケや、旅行などのイベントを行っている。担当の職員も参加しており、それぞれの職場で働くOB、OGの交流や相談の場となっている。就労後もそれまで支援を受けていた職員や仲間に相談等ができることは、就労を継続していくために大きな支えとなると考えられ評価できる。また、就労後は家族が福祉の制度等についての情報を得る機会が減ってしまうため、OB、OGの保護者会も行い、福祉情報や家族同士の交流の機会を提供している。

✓さらなる改善が望まれる点

● ヒヤリハット、事故防止、再発のための取り組み

本園では、授産作業に片栗粉加工の仕事が導入され、機械や器具を使う仕事が大幅に増えている。分場では職員が車で配達していたのを、利用者単独で配達に変えるなど、施設外での仕事も多くなっている。このような状況を鑑みると、授産事業の場面における利用者の安全確保、向上には計画的に取り組んでいくことが望まれるが、ヒヤリハット、事故対策、再発防止策を講じていくためのリスクマネジメント体制については目立った取り組みが見られない。

● 利用者の主体性や働く力を引き出すための手引き書の作成

本園では、受注作業が中心だった授産作業の内容の見直しを行い、昨年度末から、片栗粉加工の作業

を行うようになった。今までは毎日違う内容の作業を行っていた利用者が、毎日同じ仕事をするようになり、自分の仕事を意識できるようになったことで作業前の準備などで自主的な動きが見られるようになってきている。今後は、利用者が職員の指示を受けながらではなく、より主体的に作業ができ、働く力をつけていくために、職員だけでなく、利用者が見て作業工程が確認できるような手引書を整備し、活用していくことが期待される。

● 施設からの働きかけによる利用者本人の意向の把握、集約

本人活動の場、個人面談、保護者会などで利用者一人ひとりの意向や要望の吸い上げに努めている。しかしながら利用者意向の集約に関しては、平成18年度末に区の実施した「利用者・保護者アンケート」のみであり、施設では、行事や給食アンケートの実施に留まっている。利用者の声なき声を積極的に吸い上げ、本人主体のサービスを提供していくためにも、支援サービスに関する利用者アンケートの実施など、施設からの働きかけによる利用者意向の把握、集約、分析に取り組み、サービス改善に役立てていくことが望まれる。

[このページの一番上へ](#)

コメント

利用者41名のうち、本園利用者36名のうち28名、分場利用者5名のうち4名、計32名で、調査当日、実習や欠席者を除いた利用者全員である。

あわせて全41家族を対象に家族向けアンケート(利用者調査と同内容)を実施し、29家族から回答を得た。

[このページの一番上へ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#) | [特集](#) | [アクセシビリティについて](#)

Copyright©2008 (財)東京都高齢者研究・福祉振興財団

【問合せ】メールアドレス: fukushiit@fukushizaidan.jp 電話: 03-5206-8733

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 組織マネジメント分析結果

組織マネジメント分析結果

▼リーダーシップと意思決定 ▼経営における社会的責任 ▼利用者意向や地域・事業環境の把握と活用
▼計画の策定と着実な実行 ▼職員と組織の能力向上 ▼情報の保護・共有 ▼カテゴリ1～7に関する活動成果

平成19年度

知的障害者通所授産施設[経過措置]

事業所名称	世田谷区立砧工房
評価機関名称	株式会社 福祉ベンチャーパートナーズ
事業評価実施期間	2007年10月11日～2008年1月29日

リーダーシップと意思決定

1. 事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	評点
1. 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している	A
2. 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている	A
3. 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している	A
【講評】 詳細はこちら - 施設の理念にあたるものはサブミッションとして明示されている。「私たちは、利用者の... - 日々の支援の中で判断に迷ったときに職員が思い起こすことができる仕組みとして、人事... - 重要な案件については、支援会議、職員会議を経て施設長の意思決定を仰ぎ、理事会に具...	

評点の内容
▶ 詳細はこちらから

[このページの一番上へ](#)

経営における社会的責任

1. 社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる	評点
1. 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している	A
2. 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている	B
2. 地域の福祉に役立つ取り組みを行っている	評点
1. 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある	A
2. ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している	B
3. 地域の関係機関との連携を図っている	A
【講評】 詳細はこちら - 施設長が職員に対して期待する行動、人権配慮などについてまとめた「処遇の基本」が全... - 分場施設の広場を交通安全週間の関係者の詰め所として提供している。また施設長は近隣... - 区内の身体、知的、精神の授産施設、就労支援機関、ハローワーク、保健所、特別支援学...	

評点の内容
▶ 詳細はこちらから

[このページの一番上へ](#)

利用者意向や地域・事業環境の把握と活用

1. 利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している	評点
1. 利用者一人ひとりの意向（意見・要望・苦情）を多様な方法で把握し、迅速に対応している（苦情解決制度を含む）	A
2. 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる	A
3. 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している	B
【講評】 詳細はこちら - 重要事項説明書に苦情解決制度や第三者委員についての記載があり、契約時に内容が説明... - 給食に関する満足度や食事に関する嗜好を把握することを目的に嗜好調査を実施している... - 当施設は公設民営の区立施設である。地域の福祉ニーズを把握するなどについては、区全... 評点の内容 ▶ 詳細はこちらから	

[このページの一番上へ](#)

計画の策定と着実な実行

1. 実践的な課題・計画策定に取り組んでいる	評点
1. 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している	B
2. 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している	A
3. 着実な計画の実行に取り組んでいる	A
2. 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる	評点
1. 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる	B
【講評】 詳細はこちら - 事業計画は、グループ単位で事業計画に関する総括会議を行い、経営層による運営会議で... - 授産事業については、あらかじめ本園、分場それぞれについて売上・収益目標を設定して... - 本園では今年度より授産作業として片栗粉の加工の仕事が本格的に開始され、機械や器具... 評点の内容 ▶ 詳細はこちらから	

[このページの一番上へ](#)

職員と組織の能力向上

1. 事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる	評点
1. 事業所にとって必要な人材構成にしている	A
2. 職員の質の向上に取り組んでいる	B
2. 職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる	評点
1. 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる	B
2. 職員のやる気向上に取り組んでいる	A
【講評】 詳細はこちら - 求められる人材としての行動様式は、職種別の行動基準書に細かく示されている。職員は... - 今年度より人事考課制度が試験導入された。それまでは経営層による職員意識の把握の機... - 法人主催の研修会を始めとする外部研修へ職員を派遣するなどして、積極的に職員の能力... 評点の内容 ▶ 詳細はこちらから	

[このページの一番上へ](#)

情報の保護・共有

1. 情報の保護・共有に取り組んでいる	評点
1. 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる	A
2. 個人情報は、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している	B

- 施設長が使用するパソコン等の情報端末には、限られたもののみがアクセスできる権限が...
- 法人の個人情報保護規程と開示規程が整備されている。就労支援など個人情報のやりとり...

カテゴリー1～7に関する活動成果

1. 前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	評点
1. 前年度（比較困難な場合は可能な期間で）と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	A
【改善の成果】 詳細はこちら	
・人事考課表にサブミッションとゴールを明記し、職員理解に取り組んだ。・理念である...	
2. 前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している	評点
1. 前年度（比較困難な場合は可能な期間で）と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	A
【改善の成果】 詳細はこちら	
・人事考課制度が試行され、評価シートの職員の自己チェックをもとに一般職員と主任の...	
3. 前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している	評点
1. 前年度（比較困難な場合は可能な期間で）と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	A
【改善の成果】 詳細はこちら	
・本園において、昨年度末に導入した片栗粉の授産作業を軌道に乗せたことによって利用...	
4. 事業所の財政等において向上している	評点
1. 財政状態や収支バランスの改善へ向けた計画的かつ主体的な取り組みにより成果が上がっている	A
【改善の成果】 詳細はこちら	
適切な予算執行に取り組み、繰越金17,873,942円を確保した。	
5. 前年度と比べ、利用者満足や利用者意向の把握等の面で向上している	評点
1. 前年度（比較困難な場合は可能な期間で）と比べて、利用者満足や以下のカテゴリーで評価される部分において改善傾向を示している	B
【改善の成果】 詳細はこちら	
利用者の日々の様子、個人面談、給食アンケート、行事前後の意見交換などを通して利用...	
	評点の内容 ▶ 詳細はこちらから

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

評点の見方

[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > サービス分析結果

サービス分析結果

▼サービス提供のプロセス項目 ▼サービスの実施項目

平成19年度

知的障害者通所授産施設[経過措置]

事業所名称	世田谷区立砧工房
評価機関名称	株式会社 福祉ベンチャーパートナーズ
事業評価実施期間	2007年10月11日～2008年1月29日

サービス提供のプロセス項目

サービス情報の提供	評点
1. 利用者等に対してサービスの情報を提供している	A
【講評】詳細はこちら - 施設の情報は区のホームページ、福祉のしおりで紹介している。当施設は砧工房本園、就... - 当施設は区立施設であるため、毎月月次報告を提出するなど、区との情報交換は常に行わ... - 見学については随時対応している。対応は本園、分場、それぞれの主任がすることが多い... 評点の内容 ▶ 詳細はこちらから	
サービスの開始・終了時の対応	評点
1. サービスの開始にあたり利用者等に説明し、同意を得ている	B
2. サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している	A+
【講評】詳細はこちら - 重要事項や提供するサービスの内容、ルール等については、入所前の説明会で、利用者... - サービス開始時には、利用者の家族に連絡先や就学歴、生活状況などをフェイスシート、... - 就労によってサービスを終了した利用者については、事前の就労先への情報提供のほか、... 評点の内容 ▶ 詳細はこちらから	
個別状況に応じた計画策定・記録	評点
1. 定められた手順に従ってアセスメントを行い、利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している	A
2. 利用者等の希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援計画を作成している	B
3. 利用者に関する記録が行われ、管理体制を確立している	A
4. 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している	A
【講評】詳細はこちら - アセスメントについては、アセスメントシートという書式にまとめられている。項目は疾... - 個別支援計画は、作成前の面談で本人の希望を把握しながら、担当職員が原案を作成し、... - 本園の毎日の個人記録には、利用者それぞれの目標と、目標達成のための行動がチェック... 評点の内容 ▶ 詳細はこちらから	
プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	評点
1. 利用者のプライバシー保護を徹底している	A
2. サービスの実施にあたり、利用者の権利を守り、個人の意思を尊重している	A

【講評】[詳細はこちら](#)

- 利用者の情報のやり取りについては、入所時に情報提供の目的、情報提供の範囲を明示し...
- 日常の支援の中で、利用者が作業や活動などの場面で拒否をした場合には、無理強いはいせ...
- 今年度から試験導入されている人事考課制度の中で、評価シートの中に利用者に対する接...

評点の内容
▶ 詳細はこちらから

事業所業務の標準化

評点

1. 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている
2. サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている
3. さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している

B

B

A

【講評】[詳細はこちら](#)

- 法人共通の感染症マニュアル、緊急時対応マニュアルが作成されているほか、分場では、...
- 朝礼、終礼、支援員会議、職員会議などの場で、サービスの基本事項や手順の確認を行っ...
- 今年度から試験導入されている人事考課の考課表を基に、主任、施設長が面接を行い助言...

評点の内容
▶ 詳細はこちらから

[このページの一番上へ](#)

サービスの実施項目

サービスの実施

評点

1. 個別の支援計画に基づいて自立(自律)生活が営めるよう支援している

A

【講評】[詳細はこちら](#)

- すべての利用者の個別支援計画と支援の留意点を個別支援計画一覧にまとめ全職員に配布...
- 自立生活についての支援は就労支援を中心に行っている。特に分場は就労を目的としてサ...
- 対人関係についての相談は、必要に応じて個別に行っている。また、利用者本人会である...

2. 個別の支援計画に基づいて就労・日中活動等に関するさまざまな支援を行っている

A

【講評】[詳細はこちら](#)

- 本園では、3つのグループに分かれてそれぞれの作業室で活動を行っており、片栗粉加工...
- 外からの過度な刺激が苦手な利用者には、できるだけ集団から離れたところに座り、ヘッ...
- 今年度から工賃の支給方法が変わり、本園、分場共通の仕組みとなり、利用者それぞれの...

3. 栄養のバランスを考慮したうえでおいしい食事を楽しく食べられるよう工夫している

A

【講評】[詳細はこちら](#)

- 年に2回の嗜好調査の結果や、栄養のバランスなどを考慮し、施設の栄養士と、委託先の...
- 食事はご飯の量を調整したり、刻みや極刻みなどの食形態を提供できるようになっており...
- 各テーブルに栄養士や、看護師も含めて職員が入り、一緒に食事をしている。作業中は作...

4. 身の回りの支援に関しては、利用者の立場を考えてサービスを行っている

A

【講評】[詳細はこちら](#)

- こだわりが強く、更衣等に時間がかかってしまう利用者に対しても、自分で身の回りのこ...
- 当施設では、介助を必要とする利用者は少ないが、必要がある場合には同性介助を徹底し...

5. 利用者の健康を維持するための支援を行っている

A

【講評】[詳細はこちら](#)

- 利用者全員が年に1度の健康診断と歯科検診を受けるほか、月に2回内科検診を受けてい...
- 服薬については事前に看護師が、家族から薬表を預かり服薬している薬を把握している。...
- 利用者の体調変化時には、基本的には常勤の看護師が対応している。発作の可能性がある...

6. 利用者の自主性を尊重し、日常生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている

A

【講評】[詳細はこちら](#)

- 7つの年間行事のうち6つの行事については、利用者が実行委員会に参加し、職員と一緒に...
- 毎日の清掃は作業終了時に利用者と職員が行っている。その他の時間でも汚れに気づいた...
- 本園、分場合同で利用者の本人会である「きぬた会」を行っている。利用者同士で、作業...

7. 施設と家族等との交流・連携を図っている

A

【講評】[詳細はこちら](#)

- 家族への電話連絡や連絡帳記入の前には必ず本人の意思を確認するようにしている。トラ...
- 本園では連絡帳を利用して、分場では作業日誌を利用して日々の活動の様子を伝えている...
- 家族へ体験型グループホーム、緊急一時保護や、障害年金の制度の説明など、個別に必要...

8. 地域との連携のもとに利用者の生活の幅を広げるための取り組みを行っている

A

【講評】[詳細はこちら](#)

- 地域のイベントなどの案内を施設内の掲示板や通信を使って紹介している。イベントに関...
- 近隣の商店街や町会のお祭りに参加し、販売活動もしている。本園の近くには小学校があ...

評点の内容
▶ [詳細はこちらから](#)

[このページの一番上へ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 利用者調査結果

利用者調査結果

▼調査概要

▼調査結果全体のコメント

▼調査結果

平成19年度

知的障害者通所授産施設[経過措置]

事業所名称	世田谷区立砧工房
評価機関名称	株式会社 福祉ベンチャーパートナーズ
利用者調査実施期間	2007年11月1日～2007年12月16日

調査概要

- **調査対象**: 調査対象者は本園利用者36名のうち28名、分場利用者5名のうち4名で、調査当日、実習や欠席者を除いた利用者全員である。
- **調査方法**: 聞き取り方式
知的障害のある利用者の障害特性に配慮して、聞き取り方式による調査を実施した。個室で調査者2名が1対1で聞き取りによって実施した。
- 利用者総数: 41人
- 共通評価項目による調査対象者数: 32人
- 共通評価項目による調査の有効回答者数: 32人
- 利用者総数に対する回答者割合(%): 78.0%
- 調査項目: [共通評価項目](#)

[このページの一番上へ](#)

調査結果全体のコメント

施設全体のサービスに関する総合満足度をたずねたところ、本園回答者28名のうち、「大変満足」「満足」と答えた方があわせて22名に達する。「どちらともいえない」は4名、「不満」は1名であった。分場回答者4名のうち、「大変満足」「満足」と答えた方が3名であった。「どちらともいえない」と答えた方が1名であった。理由をたずねたところ「就労までの流れの説明が分かり難い。就労後のフォローもしっかりして欲しい」との意見が聞かれた。個別の質問に対する回答では、本園、分場ともに、「作業のやりがい」に対する満足度が最も高く、32名中31名が肯定的な評価をしている。「対応のていねいさ」「必要な相談や支援」などの質問についても満足度が高い。一方「プライバシーの保護」「利用者の気持ちの尊重」「不満や要望のいいやすさ」「不満や要望への対応」「外部の相談窓口」については、「はい」の割合がやや低く、「どちらともいえない」「いいえ」の割合が高くなっている。

[このページの一番上へ](#)

調査結果

1. 仕事など日常の活動はやりがいが持てるか

【コメント】
32名中31名が「はい」と答えている。具体的な作業名、作業工程を答える利用者が複数見られた。仕事にそれぞれがやりがいをもって取り組んでいることがうかがえる。

はい	22人	どちらともいえない	4人	いいえ	4人	無回答・非該当	2人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】
32名中「はい」と答えた方は22名である。「どちらともいえない」「いいえ」と答えた方は合わせて8名である。説明はあったが「詳しいことはわからない」「わかりやすくない」といった意見がきかれた。分場利用者は全員「はい」と答えている。

はい	26人	どちらともいえない	2人	いいえ	2人	無回答・非該当	2人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】
32名中「はい」と答えた方は26名である。「どちらともいえない」「いいえ」と答えた方は合わせて4名である。一部人によって対応が異なる場合があるとの意見も聞かれた。

はい	24人	どちらともいえない	2人	いいえ	1人	無回答・非該当	5人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】
32名中「はい」と答えた方は24名である。「どちらともいえない」「いいえ」と答えた方は合わせて3名である。5名の方は質問の意味がやや難しかったようである。

はい	14人	どちらともいえない	12人	いいえ	3人	無回答・非該当	3人
----	-----	-----------	-----	-----	----	---------	----

【コメント】
32名中「はい」と答えた方は14名にとどまり、「どちらともいえない」が12名、「いいえ」が3名である。具体的な理由をたずねたが、特に意見は聞かれなかった。

はい	22人	どちらともいえない	6人	いいえ	1人	無回答・非該当	3人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】
32名中「はい」と答えた方は22名である。「どちらともいえない」と答えた方は6名、「いいえ」と答えた方は1名である。「職員によって異なるので」「一応は気持ちを聞いてくれるが実際のところは決められている」という意見を言う方もいた。

はい	29人	どちらともいえない	2人	いいえ	0人	無回答・非該当	1人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】
32名中29名が「丁寧である」と答えている。「どちらともいえない」と答えた方は2名である。理由をたずねると「フレンドリーなのはいいのだが、バカにされているような気持ちになる」との意見が聞かれた。

はい	28人	どちらともいえない	0人	いいえ	1人	無回答・非該当	3人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】
32名中28名が「はい」と答えている。

はい	19人	どちらともいえない	5人	いいえ	1人	無回答・非該当	2人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】
「個別の目標や計画について説明を受けた」と答えた方は28名のうち、19名が「はい」と答えている。「どちらともいえない」と答えた方は5名、「いいえ」は1名である。「個別面談で話をした」「担当と話をした」などといっ

たコメントがあった。

10. 【過去1年以内に利用を開始し、利用前の説明を受けた方に】 サービス内容や利用方法の説明はわかりやすかったか

はい	3人	どちらともいえない	1人	いいえ	0人	無回答・非該当	1人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】

「過去1年以内に利用を開始、利用前の説明を受けた」と答えた方は5名のうち、3名が「はい」と答えている。1名の方は質問の意味がわからないようであった。

11. 不満や要望を事業所や職員に言いやすいか

はい	16人	どちらともいえない	11人	いいえ	2人	無回答・非該当	3人
----	-----	-----------	-----	-----	----	---------	----

【コメント】

32名中「はい」と答えた方は16名にとどまり、「どちらともいえない」が11名、「いいえ」が2名である。「言える機会がないとうまくいえない」「言えないときもある」といった意見も聞かれた。「昔に比べて言いやすくなった」「不満がないので」という意見もあった。

12. 利用者の不満や要望はきちんと対応されているか

はい	18人	どちらともいえない	9人	いいえ	1人	無回答・非該当	4人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】

32名中「はい」と答えた方は18名である。「どちらともいえない」が9名、「いいえ」が1名であった。「よく話を聞いてくれる」「きちんと答えを出してくれる」という意見がある一方で、「はっきりとした答えを出してくれないこともある」という意見も聞かれた。

13. 第三者委員など外部の苦情窓口にも相談できることを知っているか

はい	11人	どちらともいえない	2人	いいえ	13人	無回答・非該当	6人
----	-----	-----------	----	-----	-----	---------	----

【コメント】

32名中「はい」と答えた方は11名である。「お話したことがある」「やさしかった」「何でもはなしていい」との意見が聞かれた。一方「どちらともいえない」が2名、「いいえ」が13名に達しており、「聞いたことがない」と答える方も複数見受けられた。第三者委員など外部の相談窓口についての認知度については、ばらつきがあることがうかがえる。

[このページの一番上へ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析
結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > リーダーシップと意思決定

リーダーシップと意思決定

講 評

施設の理念にあたるものはサブミッションとして明示されている。「私たちは、利用者の持つ『主体的に働く力』を伸ばすことにより、個々の自立を支援します」が本園、分場それぞれの入り口に掲示されている。同施設のビジョンにあたる「ゴール」は、理念(サブミッション)と合わせて全職員に配布される人事考課表に明示されている。事業計画書にも明示され、年度当初の職員会議、本人活動の場である「きぬた会」、保護者会で周知されている。

日々の支援の中で判断に迷ったときに職員が思い起こすことができる仕組みとして、人事考課表による職員の自己評価が行われている。人事考課表には、理念やビジョン(サブミッションとゴール)が記載されており、定期的にこれらを意識した行動を促している。人事考課制度は今年度(平成19年度)から試験運用が始まったところであるので、今後、理念、ビジョンの浸透によって施設が今まで以上に一丸となっていくことが期待される。

重要な案件については、支援会議、職員会議を経て施設長の意思決定を仰ぎ、理事会に具申される仕組みとなっている。法人、施設で決定した事項は職員に対して職員会議や朝礼・終礼で報告される。利用者に対しては、本人活動の場「きぬた会」、朝の会、帰りの会などの場で報告され、家族に対しては保護者会で伝えられている。

[このページの一覧上へ](#)

1-1-1. 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している

評点	A
標準項目	- 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している - 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている - 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている - 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど)
A+の取り組み	

1-1-2. 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている

評点	A
標準項目	- 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている - 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している
A+の取り組み	

1-1-3. 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している

評点	A
標準項目	- 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている - 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している



利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている

A+の取り組み

[このページの一番上へ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#) | [特集](#) | [アクセシビリティについて](#)

Copyright©2008 [（財）東京都高齢者研究・福祉振興財団](#)

【問合せ】メールアドレス：fukushiit@fukushizaidan.jp 電話：03-5206-8733

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > [評価結果詳細](#) > 経営における社会的責任

経営における社会的責任

講 評

施設長が職員に対して期待する行動、人権配慮などについてまとめた「処遇の基本」が全職員に配布され、倫理綱領として機能している。さらに障害者団体作成の倫理綱領が施設の倫理綱領として準用されており、本園、分場ともに入り口に掲示されている。

分場施設の広場を交通安全週間の関係者の詰め所として提供している。また施設長は近隣の小学校や特別支援学校の進路対策講演会などで障害者理解や障害児の進路についての講演を行っている。作業ボランティアと行事(蔵まつり)などで受け入れを行っている。近年新しくボランティアを受け入れることがあまり多くないため、ボランティアに関する基本姿勢、手順、プライバシー保護の仕組みなどは整えられていないことが惜しまれる。

区内の身体、知的、精神の授産施設、就労支援機関、ハローワーク、保健所、特別支援学校などが参加する就労支援機関連絡会に参画し、世田谷区内の障害者の就労に関する共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている。

[このページの一番上へ](#)

2-1-1. 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している

評点	A
標準項目	○ 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している ○ 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる
A+の取り組み	

2-1-2. 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている

評点	B
標準項目	✕ 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる ○ 透明性を高めるために、地域の人目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している
A+の取り組み	

2-2-1. 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある

評点	A
標準項目	○ 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など) ○ 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている
A+の取り組み	

2-2-2. ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している

評点	B	
標準項目	×	ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している
	○	ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)
	×	ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている
A+の取り組み		

2-2-3. 地域の関係機関との連携を図っている

評点	A	
標準項目	○	地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している
	○	地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

評点の見方

[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > [評価結果詳細](#) > 利用者意向や地域・事業環境の把握と活用

利用者意向や地域・事業環境の把握と活用

講 評

重要事項説明書に苦情解決制度や第三者委員についての記載があり、契約時に内容が説明されている。施設内には苦情解決担当者、第三者委員が写真入りで掲示されている。第三者委員は年2回訪問し、利用者と面談を行い、内容も記録化されている。保護者会でも第三者委員の顔合わせが行われている。利用者調査でも「知っている」「何でも話していいといわれた」と複数の利用者から聞かれた。意見、要望、苦情などは、総務日誌、個人記録等に記載されているが、定義、記載や対応についてはルール化されていない。

給食に関する満足度や食事に関する嗜好を把握することを目的に嗜好調査を実施している。一泊旅行の際には、実施前アンケート、実施後の振り返りなどを行い、サービス向上につなげることに取り組んでいる。支援や作業についての満足度や要望を吸い上げたいところであるが、現状では、平成18年度末に区が実施した「利用者・保護者アンケート」のみに留まっており、施設側からの働きかけによる利用者意向の把握については特に行われていない状況である。

当施設は公設民営の区立施設である。地域の福祉ニーズを把握するなどについては、区全体として実施されていることであり、施設単独での取り組みはあまり求められていない。よって、施設単独の取り組みとして地域の福祉ニーズの収集を行うことは積極的には行われていない。また、障害者自立支援法に関する情報など福祉事業全体の動向については、業界新聞や関係団体から得られる情報を集め、整理している。重要な情報に関しては、適宜施設長が加工して文書を作成し、職員会議や保護者会の場で職員、家族等に伝えられている。

[このページの一番上へ](#)

3-1-1. 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む)

評点	A
標準項目	○ 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている ○ 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる
A+の取り組み	

3-1-2. 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる

評点	A
標準項目	○ 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる ○ 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している ○ 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる
A+の取り組み	

3-1-3. 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している

評点	B
標準項目	✕ 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる ○ 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる



事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している

A+の取り組み

[このページの一番上へ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#) | [特集](#) | [アクセシビリティについて](#)

Copyright©2008 [（財）東京都高齢者研究・福祉振興財団](#)

【問合せ】メールアドレス：fukushiit@fukushizaidan.jp 電話：03-5206-8733

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > [評価結果詳細](#) > 計画の策定と着実な実行

計画の策定と着実な実行

講 評

事業計画は、グループ単位で事業計画に関する総括会議を行い、経営層による運営会議で素案を作成、職員会議で検討の上決定される。これらのプロセスにおいて必要経費の面については区とも連絡調整を行いながら策定している。

授産事業については、あらかじめ本園、分場それぞれについて売上・収益目標を設定している。工賃についても同様である。半年に1回生産販売会議を行い、進捗状況を確認しながら進めている。また就労支援に関する取り組みの推進に関しては、同じ法人の運営する就労支援に特化した授産施設の取り組みを参考にするなどして高い成果が得られるようにつとめている。

本園では今年度より授産作業として片栗粉の加工の仕事が本格的に開始され、機械や器具を使う仕事が増えている。分場についてはこれまでの職員の車による配達に加えて、利用者単独での配達など施設外での仕事も多くなっている。このような状況を鑑みると、授産作業の場面における利用者の安全確保、向上には計画的に取り組んでいくことが望まれるが、ヒヤリハットやリスクマネジメント体制については目立った取り組みが見られない。

[このページの一番上へ](#)

4-1-1. 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している

評点	B
標準項目	✕ 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している
	○ 年度単位の計画を策定している
	○ 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる
A+の取り組み	

4-1-2. 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している

評点	A
標準項目	○ 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている
	○ 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている
	○ 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している
	○ 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している
A+の取り組み	

4-1-3. 着実な計画の実行に取り組んでいる

評点	A
標準項目	○ 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している
	○ 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にするなどの取り組みを行っている
	○ 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを図る指標を明示している

	○	計画推進にあたり、進捗状況を確認し（半期・月単位など）、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる
A+の取り組み		

4-2-1. 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

評点	B	
標準項目	○	利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している
	×	発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している
	○	再発防止・予防対策の実践に向けて、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#) | [特集](#) | [アクセシビリティについて](#)

Copyright©2008 [（財）東京都高齢者研究・福祉振興財団](#)

【問合せ】メールアドレス：fukushiit@fukushizaidan.jp 電話：03-5206-8733

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > [評価結果詳細](#) > 職員と組織の能力向上

職員と組織の能力向上

講 評

求められる人材としての行動様式は、職種別の行動基準書に細かく示されている。職員は、これを基に毎月自己評価を行い、主任、施設長のチェックを受ける。この行動基準書は人事考課の資料の一つになっており、半期に一度、管理者から面談にてフィードバックされる。正規職員の採用は、筆記試験や論文試験により本部にて一括に行われている。非常勤採用は施設で行われている。

今年度より人事考課制度が試験導入された。それまでは経営層による職員意識の把握の機会は年1回の異動や退職に関するヒアリングのみであったが、半年ごとに全職員と面談の機会がもたれるようになっている。一方、授産事業の確立を始めとする様々な取り組みによって、時間外労働が増加する傾向も指摘されており、これについては経営層も問題意識を持っている。

法人主催の研修会を始めとする外部研修へ職員を派遣するなどして、積極的に職員の能力向上に努めている。職員が研修に参加しやすいように勤務日程を調整している。しかしながら、今年度は授産事業の確立の取り組みに時間を要したことが災いして、研修成果を職員会議等の場で報告する時間がとれず、参加した職員の報告書作成にとどまっている点が惜しまれる。

[このページの一番上へ](#)

5-1-1. 事業所にとって必要な人材構成にしている

評点	A
標準項目	☐ 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している
	☐ 事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている
	☐ 適材適所の人員配置に取り組んでいる
A+の取り組み	

5-1-2. 職員の質の向上に取り組んでいる

評点	B
標準項目	☐ 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している
	☒ 職員一人ひとりの職務能力に応じた、個人別の育成(研修)計画を策定している
	☒ 個人別の育成(研修)計画を踏まえ、OJTや研修を行っている
	☐ 職員が研修に参加しやすいように、勤務日程を調整している
	☐ 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している
A+の取り組み	

5-2-1. 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる

評点	B
標準項目	☒ 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している
	☐ 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる
	☐ 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる

5-2-2. 職員のやる気向上に取り組んでいる

評点	A	
標準項目	○	事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている
	○	就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる
	○	職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる
	○	福利厚生制度の充実に取り組んでいる
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

評点の見方

[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > [評価結果詳細](#) > 情報の保護・共有

情報の保護・共有

講 評

施設長が使用するパソコン等の情報端末には、限られたもののみがアクセスできる権限が設定されたネットワークが構築されている。また、紙媒体による書類・資料類は利用者個人別や年度別などで整理され、キャビネットに分類・整理、施錠されている。

法人の個人情報保護規程と開示規程が整備されている。就労支援など個人情報のやりとりが頻繁であることも配慮し、あらかじめ個人情報の利用目的を明示し情報提供同意書を取得している。実習生やボランティアには、個人情報の扱いに関する注意点を伝え注意を喚起しているものの、近年、職員に対しては、理解や意識喚起に関する取り組みが特に行なわれていないことが惜まれる。

[このページの一番上へ](#)

7-1-1. 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる

評点	A
標準項目	○ 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している
	○ 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・保管している
	○ 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している
A+の取り組み	

7-1-2. 個人情報は、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している

評点	B
標準項目	○ 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している
	○ 個人情報の保護に関する規定を明示している
	○ 開示請求に対する対応方法を明示している
	✕ 個人情報の保護について職員（実習生やボランティアを含む）が理解し行動できるための取り組みを行っている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

評点の見方

[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > [評価結果詳細](#) > カテゴリー1～7に関する活動成果

カテゴリー1～7に関する活動成果

8-1-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている

- ・カテゴリー1:「リーダーシップと意思決定」
- ・カテゴリー2:「経営における社会的責任」
- ・カテゴリー4:「計画の策定と着実な実行」

評点	A
改善の成果	・人事考課表にサブミッションとゴールを明記し、職員理解に取り組んだ。 ・理念である「利用者の主体的に働く力を伸ばす」の実現に向けて、経営層と職員が一丸となって授産作業の確立に取り組み、これを見事軌道に乗せた。

[このページの一番上へ](#)

8-2-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている

- ・カテゴリー5:「職員と組織の能力向上」

評点	A
改善の成果	・人事考課制度が試行され、評価シートの職員の自己チェックをもとに一般職員と主任の面談が行われた。主任が一般職員を面談する機会が生まれたこと、評価シートが整備され指導する上での視点が明確になったことで、主任(リーダー)の能力向上につながった。 ・授産作業の確立による利用者の成長を契機として職員意識も向上し、さらなる改善に向けた取り組みの機運が生まれている。

[このページの一番上へ](#)

8-3-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている

- ・カテゴリー6:「サービス提供のプロセス」
- ・カテゴリー7:「情報の保護・共有」

評点	A
改善の成果	・本園において、昨年度末に導入した片栗粉の授産作業を軌道に乗せたことによって利用者の工賃は大幅に増加し、利用者の働く力、意欲の向上、情緒の安定や主体性の向上など様々な成果が生まれている。 ・分場において、職員と利用者で行っていたサラダ菜の配達を、単独公共機関を使って利用者のみで行えるような支援を実施し、利用者の働く力の向上に成果を上げている。 ・工賃規程が分かりやすく、公平になるように見直した。利用者の理解促進と働く力の向上に成果があった。

[このページの一番上へ](#)

8-4-1. 財政状態や収支バランスの改善へ向けた計画的かつ主体的な取り組みにより成果が上がっている

評点	A
改善の成果	適切な予算執行に取り組み、繰越金17,873,942円を確保した。

[このページの一番上へ](#)

8-5-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、利用者満足や以下のカテゴリで評価される部分において改善傾向を示している

- ・カテゴリ3:「利用者意向や地域・事業環境などの把握と活用」

評点	B
改善の成果	利用者の日々の様子、個人面談、給食アンケート、行事前後の意見交換などを通して利用者意向の把握等に努めている。

[このページの一番上へ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#) | [特集](#) | [アクセシビリティについて](#)

Copyright©2008 [\(財\)東京都高齢者研究・福祉振興財団](#)

【問合せ】メールアドレス:fukushiit@fukushizaidan.jp 電話:03-5206-8733

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

評点の見方

[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > [評価結果詳細](#) > サービス情報の提供

サービス情報の提供

講 評

施設の情報は区のホームページ、福祉のしおりで紹介している。当施設は砧工房本園、就労を希望する利用者を対象とした分場のキタミ・クリーンファームそれぞれにパンフレットを作成し、来所者に配布している。パンフレットはルビ入りで作業内容や、1日の日課などを紹介し、施設の様子がわかるような写真も掲載されている。今後は、更にわかり易い情報提供ができるように利用者向けのパンフレットや、映像の作成を検討している。

当施設は区立施設であるため、毎月月次報告を提出するなど、区との情報交換は常に行われている。

見学については随時対応している。対応は本園、分場、それぞれの主任がすることが多いが、見学者の目的や、希望などに応じて、施設長も対応するようにしている。

[このページの一番上へ](#)

1-1. 利用者等に対してサービスの情報を提供している

評点	A
標準項目	☒ 利用者が入手できる媒体で、利用者に事業所の情報を提供している
	☒ 利用者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている
	☒ 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している
	☒ 利用者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

評点の見方

[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > [評価結果詳細](#) > サービスの開始・終了時の対応

サービスの開始・終了時の対応

講 評

重要事項や提供するサービスの内容、ルール等については、入所前の説明会で、利用者には本園、分場それぞれの主任が、家族には施設長が説明している。重要事項説明書、契約書には、それぞれ署名、捺印を依頼している。施設での生活やサービスに関する要望、意向については利用前の実習中に聞き取ることが多いため、契約時の面接で聞かれることは少ない。したがって記録はされていない。

サービス開始時には、利用者の家族に連絡先や就学歴、生活状況などをフェイスシート、利用者台帳に記入を依頼し把握している。具体的な支援の留意点については、実習時に確認し、利用開始前に朝の打ち合わせ等で担当職員が報告し、利用者のストレスの軽減、状況の把握、情報の共有に努めている。通所時のバス停からの付き添いや、作業中の1対1での職員の対応など、必要に応じて個別の支援を行っている。

就労によってサービスを終了した利用者については、事前の就労先への情報提供のほか、就労先を職員が訪問したり、電話での相談を随時受け付けたり、必要に応じて、通勤時の付き添いをするなど、きめ細かな支援を行っている。職場訪問時の様子は記録に残し、個別ファイルにまとめられている。

[このページの一番上へ](#)

2-1. サービスの開始にあたり利用者等に説明し、同意を得ている

評点	B
標準項目	○ サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を利用者の状況に応じて説明している
	○ サービス内容や利用者負担金等について、利用者の同意を得るようにしている
	× サービスに関する説明の際に、利用者や家族等の意向を確認し、記録化している
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

2-2. サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している

評点	A+
標準項目	○ サービス開始時に、利用者の支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している
	○ 利用開始直後には、利用者の不安やストレスを軽減するよう配慮している
	○ サービス利用前の生活をふまえた支援をしている
	○ サービスの終了時には、利用者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている
A+の取り組み	・就労後の利用者のOB,OG会「ディアーフレンド」の運営をサポートしており、毎月2回本園での話し合いと、カラオケや、旅行などのイベントを行っている。担当の職員も参加しており、退所後それぞれの職場で働くOB、OGの交流や相談の場となっている。また、就労後は家族が福祉の制度や現状についての情報に触れる機会が減ってしまうため、OB、OGの保護者会も行い、福祉情報や家族同士の交流の機会を提供している。

[このページの一番上へ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

評点の見方

[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > [評価結果詳細](#) > 個別状況に応じた計画策定・記録

個別状況に応じた計画策定・記録

講 評

アセスメントについては、アセスメントシートという書式にまとめられている。項目は疾患や体重、栄養などの健康面、排泄などの身辺面、自立生活やコミュニケーションなどの社会性、作業活動に分かれており、個別面談で家族や本人から聞き取りながら状況を把握している。アセスメントシートは、年1回総括を行い、個人面談で状況の変化を確認しながら見直しをしている。日々の授産活動についての評価は作業評価表により行われており、6ヶ月に1度見直されている。この2つの情報、評価から課題を明示するようにしている。

個別支援計画は、作成前の面談で本人の希望を把握しながら、担当職員が原案を作成し、支援員会議で検討し作成している。個人面談で計画を説明し、利用者、家族の希望があれば、必要に応じて作成しなおしている。計画は半年に1度、支援員会議で達成状況を確認し、評価を作成し、必要に応じて計画書の見直し、個人面談を行っている。年度末にはまとめを作成し次の計画作成につなげている。ただ、分場では1年程度で利用者が就労していくことを鑑みると、必要に応じて短めの期間で計画の評価や見直しをする仕組みづくりが期待される。

本園の毎日の個人記録には、利用者それぞれの目標と、目標達成のための行動がチェックできるようになっており、職員が良、不良でチェックし特記事項を記入している。個別支援計画を元にチェック項目を記載しているため、どの職員が記録をしても内容にばらつきがなく、利用者の状態の変化が把握しやすいようになっている。分場では、毎日日誌に利用者と職員と一緒に記入し、個別支援計画の目標の評価を自己評価し、職員の評価も受けている。計画の内容、支援の留意点を一覧表にまとめ全職員に配布し、支援情報の共有をしている。

[このページの一番上へ](#)

3-1. 定められた手順に従ってアセスメントを行い、利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点	A	
標準項目	☒	利用者の心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し、把握している
	☒	利用者一人ひとりのニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している
	☒	アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

3-2. 利用者等の希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援計画を作成している

評点	B	
標準項目	☐	計画は、利用者の希望を尊重して作成、見直しをしている
	☐	計画を利用者にわかりやすく説明し、同意を得ている
	☐	計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたとうえで、必要に応じて見直ししている
	☒	計画を緊急に変更する場合のしくみを整備している
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

3-3. 利用者に関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点	A	
標準項目		利用者一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしくみがある
		計画に沿った具体的な支援内容と、その結果利用者の状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

3-4. 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点	A	
標準項目		計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している
		申し送り・引継ぎ等により、利用者に変化があった場合の情報を職員間で共有化している
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#) | [特集](#) | [アクセシビリティについて](#)

Copyright©2008 (財)東京都高齢者研究・福祉振興財団

【問合せ】メールアドレス: fukushiit@fukushizaidan.jp 電話: 03-5206-8733

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

評点の見方

[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > [評価結果詳細](#) > プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

講 評

利用者の情報のやり取りについては、入所時に情報提供の目的、情報提供の範囲を明示した、情報提供同意書を配布し、利用者、家族に情報提供可能な範囲を選んでいただき、署名、捺印をいただいている。

日常の支援の中で、利用者が作業や活動などの場面で拒否をした場合には、無理強いせず、本人の意思を確認し、他の作業を選べるようにするなどの配慮をしている。利用者それぞれの特性や希望にあわせて、作業グループの選択や作業環境の配慮などを行い、利用者がそれぞれのペースに合わせて活動できるようにしている。

今年度から試験導入されている人事考課制度の中で、評価シートの中に利用者に対する接遇を振り返ることのできる項目が設けられている。職員は毎月自己評価をし、半年に一度主任、施設長の面接を受けている。虐待被害にあった利用者の対応については、保健福祉センターや担当ケースワーカーと連携をとり支援を行っている。利用者の価値観や、生活習慣については、作業や集団での活動に支障がない範囲で受け入れており、個別に対応している。

[このページの一番上へ](#)

5-1. 利用者のプライバシー保護を徹底している

評点	A
標準項目	- 利用者にに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、利用者の同意を得るようにしている - 日常の支援の中で、利用者のプライバシーに配慮している - 利用者の羞恥心に配慮した支援を行っている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

5-2. サービスの実施にあたり、利用者の権利を守り、個人の意思を尊重している

評点	A
標準項目	- 日常の支援にあたっては、個人の意思を尊重している(利用者が「ノー」と言える機会を設けている) - 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に対策を検討し、対応している - 虐待被害にあった利用者がある場合には、関係機関と連携しながら対応する体制を整えている - 利用者一人ひとりの価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

評点の見方

[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > [評価結果詳細](#) > 事業所業務の標準化

事業所業務の標準化

講 評

法人共通の感染症マニュアル、緊急時対応マニュアルが作成されているほか、分場では、作業内容である水耕マニュアル、配達マニュアルを作成している。ただ、日常的に、職員がマニュアルにそってサービス内容を点検するような取り組みはされていない。本園では、今年度から作業内容が変わったためまだマニュアルが作成されておらず、施設としても作成と活用必要性を感じている。作成しているマニュアルについては運営会議で毎年見直しがされている。

朝礼、終礼、支援員会議、職員会議などの場で、サービスの基本事項や手順の確認を行っている。朝礼、終礼、支援員会議については、本園、分場に別かれて行い、利用者の状態や作業内容の確認を行っている。また利用者の安全性に関する配慮については、会議などの場で口頭で確認されている。ただ、授産活動をする中では、材料や製品が多くあるなかでの利用者の動線の確保、器具や機械を利用する際の安全の確保など安全面の課題は多いが、現在のところ踏み込んだ取り組みはされておらず今後の改善の余地が残されている。

今年度から試験導入されている人事考課の考課表を基に、主任、施設長が面接を行い助言、指導しているほか、日常的にも主任や施設長が助言や指導をしている。作業については、水耕、片栗粉の作業それぞれの専門知識をもつ非常勤職員に相談し、指導を受けている。

[このページの一番上へ](#)

6-1. 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点	B	
標準項目	○	手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている
	○	手引書等は、職員の共通理解が得られるような表現にしている
	×	提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している
	×	職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

6-2. サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点	B	
標準項目	○	提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている
	○	提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や利用者等からの意見や提案を反映するようにしている
	×	職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

6-3. さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している

評点	A	
標準項目		打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている
		職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している
		職員全員が、利用者の安全性に配慮した支援ができるようにしている
		職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している
		職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

評点の見方

[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > [評価結果詳細](#) > サービスの実施

サービスの実施

1. 個別の支援計画に基づいて自立(自律)生活が営めるよう支援している

講 評

すべての利用者の個別支援計画と支援の留意点を個別支援計画一覧にまとめ全職員に配布しており、職員全員が個別支援計画を意識し支援にあたれるようにしている。視覚情報の方が理解しやすい利用者に対しては、ホワイトボードに1日の予定や作業内容を書き込んだり、口頭ではなく、筆談で伝えるようにするなどの工夫をしている。

自立生活についての支援は就労支援を中心に行っている。特に分場は就労を目的としてサービスを提供しているため、職場適応プログラムを設定し、生活面、就労面での支援を行っている。生活プログラムには対人関係、身だしなみ、お金や携帯電話の使い方、生活寮の見学などがあり、就労支援としては、履歴書の書き方、面接練習、実際の面接会への参加などを行っている。また、本園でも今年度は就労を希望する利用者が所属する活動グループで、OB、OGから直接、就労に関する話を聞く機会を設けた。

対人関係についての相談は、必要に応じて個別に行っている。また、利用者本人会である「きぬた会」や職場適応プログラムの中で対人関係についての話をすることもある。利用者やOB、OGが作業終了後に、電話で相談をしていくこともあるが、職員が可能な限り対応している。また、心理相談員による個人心理相談を本園で月2回、分場で月1回実施し、対人関係について専門的なサポートを行っている。

評点	A
標準項目	○ 個別の支援計画に基づいて支援を行っている
	○ 利用者の特性に応じて、コミュニケーションのとり方を工夫している
	○ 自立生活に必要なさまざまな情報を提供している
	○ 必要に応じて対人関係のアドバイス等を行っている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

2. 個別の支援計画に基づいて就労・日中活動等に関するさまざまな支援を行っている

講 評

本園では、3つのグループに分かれてそれぞれの作業室で活動を行っており、片栗粉加工の作業、箸セットづくりなどの受注作業や公園清掃の作業、就労を目標に受注作業をするグループがある。グループは本人との面談で希望を聞き、決定している。分場では、就労を希望する利用者が、サラダ菜等の水耕栽培と、公園清掃や受注作業などを行っている。分場には活動グループは1つのみではあるが、就労を意識し、どんな作業でもできるように利用者の担当作業を固定せず、1週間単位でいろいろな作業を経験できるようにしている。

外からの過度な刺激が苦手な利用者には、できるだけ集団から離れたところに座り、ヘッドフォンをして作業ができるようにするなど個別の環境設定をしている。相性などの対人関係に問題がある場合には、席の配置で配慮するなどの対応をしている。また、就労を目標に活動しているグループは比較的落ち着いて作業ができるため就労を希望していなくても静かな環境を望む利用者が活動できるようにしている。7つの年間行事の内6つの行事は利用者が実行委員として関わっており、利用者が主体的に活動できる場となっている。

今年度から工賃の支給方法が変わり、本園、分場共通の仕組みとなり、利用者それぞれの評価に基づき支払

われている。新しい支給方法については、利用者には「きめた会」で、家族には保護者会で説明された。評価は評価委員会を経て決定されており、半年に1回見直され、内容は利用者、家族も確認しているため、本人はどこが評価され、どこが課題なのかを知ることができる。配達や納品には利用者が立会い、自分たちの行った作業について達成感をもてるようにしている。就労支援も充実しており、毎年5名程度の就労実績がある。

評点	A	
標準項目	☐	授産活動のメニュー等は、利用者の希望や特性により選択できるようにしている
	☐	利用者が活動しやすい環境を整えている
	☐	利用者一人ひとりのニーズに応じたその人らしさが発揮できる活動を用意している
	☐	工賃は利用者との合意に基づいて支給している
	☐	利用者の働く意欲を盛り立てる取り組みを行っている
	☐	就労可能な利用者には、就労に向けた相談や具体的な支援を行っている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

3. 栄養のバランスを考慮したうえでおいしい食事を楽しく食べられるよう工夫している

講 評

年に2回の嗜好調査の結果や、栄養のバランスなどを考慮し、施設の栄養士と、委託先の栄養士が考えた献立を、月に1回の給食会議の場で検討し献立を決定している。本園では開設当初から毎日A、Bのどちらかのメニューを選べるようになっており、分場には本園の厨房から届けているため、事前にAかBを選択している。月に2回は本園の食堂で、分場の利用者と合同で食事をする機会を設けている。また誕生日の利用者がその日のメニューをリクエストできるようになっている。

食事はご飯の量を調整したり、刻みや極刻みなどの食形態を提供できるようになっており、健康診断や歯科検診の結果を基に看護師と相談し、ご本人の了解をとり利用者の状態にあった食事を提供している。また、食事時間を休憩も含めて11時45分から13時まで長めに設定し、利用者それぞれのペースで食事ができるようにしている。

各テーブルに栄養士や、看護師も含めて職員が入り、一緒に食事をしている。作業中は作業以外の話はできないため、コミュニケーションの場となっており、和やかに会話をしながら食事をしていた。

評点	A	
標準項目	☐	利用者の希望や職員の意見を反映し、バラエティーに富んだ飽きのこない食事を提供している
	☐	利用者の状態やペースに合わせて食事がとれるよう、必要な支援を行っている
	☐	食事時間が楽しいひとときとなるよう環境を整えている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

4. 身の回りの支援に関しては、利用者の立場を考えてサービスを行っている

講 評

こだわりが強く、更衣等に時間がかかってしまう利用者に対しても、自分で身の回りのことが出来るように、職員は手伝ってしまわず、見守りをし、自分のペースでできるようにしている。また、身だしなみについては、就労を目指す利用者にとって課題になることもあり、個別支援計画の目標として設定している利用者もあり、職員も必要な支援を行っている。

当施設では、介助を必要とする利用者は少ないが、必要がある場合には同性介助を徹底し、利用者の羞恥心

に配慮している。

評点	A	
標準項目	○	利用者の状態やペースに合わせて、日常生活上の必要な支援を行っている
	○	必要に応じて、身の回りのことは自分でできるよう働きかけている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

5. 利用者の健康を維持するための支援を行っている

講 評

利用者全員が年に1度の健康診断と歯科検診を受けるほか、月に2回内科検診を受けている。また、その際に看護師が身体測定と血圧測定をおこなっている。診断の結果によっては、通院や服薬の助言を行っている。また必要に応じて利用者の通院支援を行っている。

服薬については事前に看護師が、家族から薬表を預かり服薬している薬を把握している。利用者が持ってきた薬を1度看護師が預かり、確認をした上では配薬している。服薬後、服薬一覧表を利用し空袋を確認している。看護師の不在のときにも職員が服薬一覧表を利用し、確実に服薬ができるようになっている。

利用者の体調変化時には、基本的には常勤の看護師が対応している。発作の可能性がある利用者については全職員に配布されている個別支援計画一覧に対応方法が記載しており、職員も対応ができるようにしている。

評点	A	
標準項目	○	健康状態に関して、利用者の相談に応じ、必要に応じて利用者や家族に説明をしている
	○	必要に応じて、通院や服薬等に対する助言や支援を行っている
	○	服薬管理は誤りがないようチェック体制を整えている
	○	利用者の体調変化(発作等の急変を含む)に速やかに対応できる体制を整えている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

6. 利用者の自主性を尊重し、日常生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている

講 評

7つの年間行事のうち6つの行事については、利用者が実行委員会に参加し、職員と一緒に行事の司会や旅行の行き先の決定などの企画にも関わっており、利用者主体の活動ができるようにしている。また、利用者の選択の機会を作るため選択行事も行っている。毎日昼休みにマラソンの時間があり、職員と一緒に5名程度の利用者がマラソンをしている。同じ時間に健康上、運動が必要な利用者3名程度がウォーキングをしている。また月に1回運動療法、音楽療法を行っており、講師の指導のもと20名程度の利用者が参加している。

毎日の清掃は作業終了時に利用者と職員が行っている。その他の時間でも汚れに気づいたときには職員が随時清掃している。また月に1度は専門業者による清掃が入っている。授産作業のため、廊下等に物を置かなくてはいけないことが多く、安全にも考慮し整理整頓するように心がけているが、やや雑然としたところもあり、更なる配慮が望まれる。

本園、分場合同で利用者の本人会である「きぬた会」を行っている。利用者同士で、作業の時間を守るなどのルールの確認をすることもある。また、作業内容や、工賃支給方法の変更など事業内容の変更については、施設側が事前に「きぬた会」の場を利用して説明するようにしている。ただ、「きぬた会」は担当職員がテーマ

を決めて話をするなど、職員がリードしながら行われており、利用者の主体的な活動の場とするためには、更なる取り組みが期待される。

評点	A	
標準項目		行事やレクリエーションのプログラムは、利用者の特性や嗜好を考慮し、多様な体験ができるようにしている
		室内は、採光、換気、清潔性など居心地のよい環境となるようにしている
		日常の生活に関するきまりごとについては、利用者等の意見を参考に見直しをしている
		利用者同士が意見を言う機会があり、その意見等を施設運営に反映できるようしくみを整えている
		行事やイベントの企画・準備は利用者も参加して行っている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

7. 施設と家族等との交流・連携を図っている

講 評

家族への電話連絡や連絡帳記入の前には必ず本人の意思を確認するようにしている。トラブルなどを家族に報告する場合には、なるべく利用者本人に納得してもらってから報告するようしている。また分場では利用者と職員と一緒に、連絡帳にもなっている作業日誌に自分の1日の様子を記入している。

本園では連絡帳を利用して、分場では作業日誌を利用して日々の活動の様子を伝えている。ただ、自分で1日の様子を伝えられる利用者については、必要なときに記入するようにしている。広報紙でも利用者の日々の様子を伝えている。月に1回の保護者会を開催しており、利用者の様子を伝えたり、施設側の情報を伝える場となっている。保護者会の機会を利用し、給食試食会も行っている。また、年に1度個別支援計画の作成の時期にあわせて個別面談も行っておりその際にも個別に利用者の様子を伝えている。

家族へ体験型グループホーム、緊急一時保護や、障害年金の制度の説明など、個別に必要な情報の提供を行っている。通院に家族が付き添うことが難しい場合には職員が通院の支援をしている。また、個別面談の時間を夕方に変更したり、家族の帰宅時間にあわせて、時間外に電話での連絡をしたり、相談を受け付けたりと、家族の個別の状況に応じてきめ細かな対応をしている。

評点	A	
標準項目		家族等との交流・連携に際して、利用者本人の意思を確認し、その意向に基づいた対応をしている
		利用者の日常の様子や施設の現況を家族等へ知らせる手段を整えている
		必要に応じて、家族等への情報提供や支援をしている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

8. 地域との連携のもとに利用者の生活の幅を広げるための取り組みを行っている

講 評

地域のイベントなどの案内を施設内の掲示板や通信を使って紹介している。イベントに関するお知らせを連絡帳にはさみ紹介することもある。

近隣の商店街や町会のお祭りに参加し、販売活動もしている。本園の近くには小学校があり、交流活動を行っている。また、近隣のボランティアも作業やイベントの手伝いをしている。施設前で毎日授産活動で作った、サラダ菜や片栗粉を販売しており、近隣住民が購入できるようにもなっており、地域の資源を利用するのみではなく、地域の中に溶け込めるような活動を心がけている。

評点	A	
標準項目	○	地域の情報を収集し、利用者の状況に応じて提供している
	○	必要に応じて、利用者が地域の資源を利用し、多様な体験ができるよう支援している
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#) | [特集](#) | [アクセシビリティについて](#)

Copyright©2008 (財)東京都高齢者研究・福祉振興財団
【問合せ】メールアドレス:fukushiit@fukushizaidan.jp 電話:03-5206-8733